

確認要求表現「でしょう」を用いた発話について —対応する英語部分との比較—

瓜 生 佳 代

要旨

確認要求表現「でしょう」は、情報に対する聞き手の認識状態を話し手が配慮した結果、選択される表現形式の一つである。本稿では「でしょう」が選択される状況において英語ではどういった表現形式が使われているのかをアメリカ映画のシナリオ及び日本語吹き替え音声を通して比較した。その結果、「でしょう」が用いられた日本語訳に対応する英語の部分は付加表現を伴わない無標のことが多いこと、また付加表現の中では附加疑問が「でしょう」を用いた日本語訳と対応する率が高いことがわかった。

英語に何の付加表現もない場合で日本語訳に「でしょう」が使われているときの談話展開を見ると、話し手が自分の考えや行為の正当性を主張するための根拠を示したいときや、複雑な文を短く切って情報を確認しながら差し出そうとする場合であった。二人称が格の構文で述べ立て内容が聞き手の過去の行為や感情などのときは、日本語の人称制限のため、日本語訳に「でしょう」が多く用いられている。また、附加疑問文の中で「でしょう」を用いた訳が表れやすいのは、聞き手のほうに確かな情報があり話し手が聞き手に発話内容の正否を確認する場合であった。

キーワード：でしょう、情報、確認要求、英語、対応

1. はじめに

我々は会話を行うとき、発話内容について聞き手が知っているかどうか、あるいはその内容が話し手と聞き手のどちらに近いものであるかを、無意識に推し量りながら話している。日本語では、その話し手の判断結果が主に終助詞などの言語形式で文末にあらわされる。従って、日本語学習者が終助詞を中心とした日本語の文末表現をうまく使い分けるためには、話し手聞き手の情報のあり方がどのように言語形式に反映されるかを知っておかなければならない。しかし、日本語のそういった情報のあり方を反映する文末表現は多岐にわたっており、それぞれの形式の意味機能をすべて把握し、使い分けるのは、学習者にとってかなり困難だと考えられる。その学習者の困難を理解するためには、学習者の母語にそういったシステムがあるのか、あるとすれば、それが日本語の場合とどのように異なるのかを理解する必要があるだろう。

本稿では、英語をとりあげ、情報に対する話し手と聞き手の認識状態に応じて選択される文末の言語形式を日本語と比較してみたいと考えた。メイナード(1993, p.124)が指摘するように、英語は「命題に直接関係のある語彙のみで成り立っている文—つまり日本語の「裸のダ体」に相当する—が多く」、日本語と対照的だと考えられるからである。日本語の場合は文末形式として「ね」、「よ」、「よね」などの終助詞の他、助動詞の確認要求用法である「でしょう」、「じゃないか」なども多用されている。これらすべての文末形式を一度に見ていくのは困難なので、ここでは特に確認要求の機能をはたす「でしょう」(「でしょ」、「だろう」、「だろ」などの形式を含む。以下、デショウと記す)をとりあげることにした¹⁾。終助詞の「ね」、「よ」に比べてまだ対照研究が少ないと思われるからである。

資料としては映画のシナリオを用いた。日本語訳にデショウが使われている部分(以下この部分をデショウ訳と記す)をとりあげ、英語の言語形式と比較した。そして、①デショウ訳と対応する部分の英語の言語形式はどうなっているのか、②対応する形式がない場合、どういう状況でデショウが使われるのか、③対応する形式がある場合、どうい

た点で対応しているのかを分析した。

2. 使用データ

データとして用いたのは、2本のアメリカ映画「ワーキングガール」と「ボディガード」のシナリオ（英語とその日本語訳）、およびレンタルビデオの日本語吹き替え音声である。「ワーキングガール」のほうは、テレビで放送された吹き替え版の録音もあったのでこちらも資料とした。レンタルビデオとテレビの放送版とでは表現が異なっていたからである。これらの日本語訳のうち、どこかに一か所でもデシヨウ訳が使われている部分があれば、その部分を検討の対象とした。シナリオの日本語訳と吹き替えの日本語とでは、吹き替えのほうが実際発話しているだけに自然な会話になっている面もあるが、一方で英語の口の動きにできるだけあわせようとする制約もある。どちらにも、日本人に理解しやすいように意識された部分があったが、デシヨウを使った部分が原文の英語からかけはなれた意識になっている場合は検討の対象から外した。それぞれの映画で発話されている文の総数（シナリオにおける英語の文の数）は、「ワーキングガール」が1794、「ボディガード」が1809で、合計3603だった。このうち、日本語訳にデシヨウが用いられていたのは、それぞれ67、74で、合計141だった。この中から、推量の意味のもの9例および、意識されたもの22例を除いた110のデシヨウ訳を分析の対象とした。

3. デシヨウ訳に対応する部分の英語表現

メイナード (1993, p.124) は、米会話における聞き手目当ての文末表現として次のようなものをあげている。

1. "you know" "right" "OK" 等
2. 附加疑問
3. 相手をファーストネームで呼ぶ
4. "or something" "like" などのあいまいさ、躊躇を表す表現を文末に加える
5. 接続詞
"though" や "but" を文末につけて表現をやわらげる

この中で話し手と聞き手の情報のあり方に左右される表現は、1と2である。そこで、デシヨウ訳に対応する英語部分にこれらの表現が用いられているかどうかを特に注意して見てみた。その結果を表1に示す²⁾。また、表2には、

それぞれの付加表現がシナリオ全体でどのくらい使われていたか、その総数を示した。用例数が少ないのであまり意味をなさないとも思われたが、デシヨウ訳が使われた比率も一応記しておいた。

表1 デシヨウ訳に対応する部分の英語表現

	ワーキング ガール	ボディガー ド	合計
附加疑問	5	13	18
You know	6	3	9
Right	1	3	4
Huh	0	3	3
付加表現なし	43	33	76
合計	55	55	110

表2 デシヨウ訳に対応する言語形式の総出現数

	総出現数	デシヨウ訳の ついた用例数	デシヨウ訳の 使われる率
附加疑問	26	18	69.2%
You know	44	9	20.5%
Right	12	4	33.3%
Huh	19	3	15.8%

表1からわかるように、デシヨウ訳に対応する英語の部分は、付加表現のない、無標の文である場合が76例（約69%）で最も多かった。つまり、英語で特別な表現を使っていない部分でも日本語では確認要求表現デシヨウを使う場合がかなりあるということである。対応する付加表現の中で最も多かったのは附加疑問で、18例のデシヨウ訳が英語の附加疑問文と対応していた。附加疑問文は全体の26か所で用いられており、その約70%がデシヨウ訳になっている。その他、"you know" "right" "huh" がデシヨウ訳と対応していたが、その数は少なかった。

このように、デシヨウ訳に対応する英語の部分は付加表現を伴わない無標のものが多いこと、また付加表現の中では、附加疑問がデシヨウ訳と対応する率が高いことがわかった。

4. デショウ訳に対応する英語の付加表現がない場合

ここでは、最も用例数が多かった「付加表現なし」の場合について見ていきたい。英語では何の付加表現もない文に、なぜデショウ訳がつくのだろうか。まず4. 1で、英語の文の種類別にデショウ訳との対応を見る。そのあと4. 2でデショウ訳が用いられる場合の談話の展開パターンを見ていく。

4. 1 デショウ訳に対応する英語の文の種類

デショウ訳に対応する英語部分の文の種類は、述べ立てる文が61例、たずねる文が12例、働きかける文が3例であった。特にたずねる文と働きかける文は、例が少なく、はっきりしたことはいえないが、例文を通して観察されたことを述べておきたい。例文の中の[シ]はシナリオの日本語訳、[テ]はテレビの吹き替え、[ビ]はビデオの吹き替えの台詞であることを示している。デショウ訳が表れた部分はシナリオと吹き替えの両方の日本語訳を示したが、そうでない部分は紙幅の都合でシナリオの日本語訳のみにした。

4. 1. 1 働きかける文

日英ともにパターンの決まっているものが多く、決まった形式がそのまま使われることが多いのではないと思われる。たとえば、英語の勧めの形式「why don't you ~?」の形が日本語の「~ばいいだろう」に対応している。

(例1) ニッキーが自分の生き方をなげいている場面

FRANK: Then why don't you change it, Nicki?

[シ] じゃあ変えればいいだろう? [ビ] だったら生活を変えればいい。

また、誘ったり、依頼したりする場合は、それに相当する英語の語句に対して、「いいだろ」という日本語訳がついていた。

(例2) ジムがキャサリンにパーティを抜け出して2人でどこかへ行こうと誘っている場面

JIM: So, come on, Katharine, what do you say?

[シ] なあ、キャサリン、いいだろ。 [テ] ねえ、キャサリン、いいだろ。うんと言ってくれよ。

[ビ] そりゃないよ。いいだろ、キャサリン。

(例3) ジャックがテスを誘っている場面

JACK: Please? Please, one drink.

[シ] 頼むよ。一杯でいいから。 [テ] 頼むよ。ねえ、一杯だけつきあって。

[ビ] 頼むよ。いいだろ。一杯だけ。

4. 1. 2 たずねる文

英語の疑問文の中で、話し手がすでにわかっていて聞いているような場合はデショウ訳が自然になる。その答えの部分、つまり本当に意図する内容がデショウを使って差し出されていた。

(例4) シンがテスを昼食に誘い、テスが断っている場面。

TESS: No lunch. I got speech class. 昼食はいいわ。話し方教室があるの。

CYN: What do you need speech class for? You talk fine.

[シ] 話し方教室なんか必要ないでしょう?ちゃんと話せるのに。 [テ] 講座なんか受けなくてもそれだけしゃべれりゃ上等よ。 [ビ] あのさあ、ちゃんと話せるのになんでわざわざ。

文字どおりに訳せば「何のために話し方教室が必要な?」となるが、話し手は話し方教室など必要ないと思っている。日本語訳ではその本当の気持ちをデショウを用いて、「必要ないでしょう」という表現で表している。テレビやビ

デオの吹き替えではその後の「ちゃんと話せる」という部分と結びつけた意識となっている。

(例5) レイチェルが、危険を承知でオスカー授賞式に出たいとボディガードのフランクに告げている場面

RACHEL: I mean, I didn't get to this place in my life by doing the smart thing every time. How about you, Frank Farmer? Out on the edge.

[シ] ここまでこれたのは、常に賢く立ち回ったからじゃない。あなただってそうでしょ。きわどい状態。

[ピ] 今までだって必ずしも順調な時ばかりじゃなかったわ。あなたもでしょ。これまでに人生の岐路に立ったはずよ。

英語では「あなたはどうかの」と聞いているだけだが、日本語訳では、デショウを使って、「あなたもそうにちがいない」という話し手の推量を差し出す形となっている。話し手は質問の答が聞きたいわけではない。ここで「あなたはどう」と聞いてしまうと、緊迫感がなくなってしまう。

4. 1. 3 述べ立てる文

述べ立てる文において、デショウで差し出される情報を見てみると、その情報が話し手に関係の深い場合も、聞き手に関係の深い場合も、中立的な場合もあった。しかし、いずれの場合も話し手はその情報について知っており、真偽に疑いをもってはいない。1例を除いて、聞き手に確認を求めているものはなかった³⁾。

ここでは、述べ立てる文の人称制限について触れておきたい。仁田 (1991, pp.78-93) によると、日本語の述べ立てる文には、ガ格にたつ名詞の人称に制限があり、決意、感情、感覚、自明な現在の事態、自覚的な過去の出来事などを述べ立てる場合、二人称ガ格を取ることができないという。聞き手に対して上記内容を述べ立てる場合は、「ね」やデショウなどの確認表現をつける必要があるのである。一方、英語にはそういった制限はないようである。従って学習者は、「you」が主格にたつ文で上記の内容を伝えたい場合には注意が必要であろう。今回このタイプの用例は10例見られた。いくつか簡単にあげておく。

(例6) You saw me! [シ] 見てたでしょ! (聞き手の自覚的な過去の出来事)

(例7) You told me, she has everything. [シ] 話してくれただろ、...。(聞き手の自覚的な過去の出来事)

(例8) You wanna do it...do it. [シ] 彼と話したいんだろ? (聞き手の願望)

(例9) And you're not exactly buying it for a write-off. [シ] 資産から切り捨てるために、買うんじゃないでしょ。
(聞き手の意志)

また、話し手が聞き手に言うという行為も聞き手にとっては聞くという自覚的な過去の出来事になる。その場合は一人称主語でもデショウの類が必要になる。このタイプは7例あった。

(例10) Oh, Christ, I told you why. I-I can't protect you like this. [シ] [ピ] ...理由は話したろ。...

(例11) All right, all right, all right. I'll-I said I'll do it!! [シ] わかった、わかった。切ると言ってるだろ。

"I said ~." "I told you ~." という表現を使うと話し手のいらいらした気分や相手を非難する気持ちが表れやすい。これは日英共通のようである。

4. 2 デショウを用いた発話を含む談話の展開パターン

次に、英語に対応する形式のない場合、人称制限のある場合は別にして、どういう談話の展開パターンの時にデショウをつけて訳すと自然になるのか、デショウをつけることによってどんな効果が期待されるのかといったことを見ていきたい。こういった要素が抽出されれば、日本語学習者が自然にデショウを使えるようになるための一助になるのではないと思われる。どんなところにデショウが使われるのかを見ていった結果、主に次の2つの場合が観察された。

① 提案、説明、反論、言い訳、断り、誘い、勧めなどの目的のためにその根拠となる情報を提供し、自分の正当性を主張したい場合⁴⁾

② 聞き手が理解しやすいように、短く区切って必要情報の共有を確認しながら話をすすめていく場合⁵⁾

4. 2. 1 聞き手を納得させるために話し手の正当性を強調したいとき

(例12) 夜の食事を断られたジャックがテスを昼食に誘っている場面

JACK: I've been up here all night, workin' the numbers. I'd like to go over it with you. Can we meet for lunch? I mean, Lunch is all right, isn't it? Daylight, a lot of people around. Is that real romantic? The Souvlaki stand out in front of your place. You're in no particular danger, I think.

[シ] . . . 君の社の前の屋台はどう。危険はないだろ? [テ] . . . 貞操の危機はございませんからご心配なく。 [ビ] . . . それなら危険はないんじゃないかな。

これは、話し手が聞き手を昼食に誘っているところである。夜の食事を断った聞き手に「昼食なら危険はない」といって説得している。説得の根拠となっている部分にデシヨウが使われているのである。デシヨウ訳はシナリオのみだが、デシヨウ訳を使っていない吹き替えと比べて働きかけが強く感じられる。

(例13) 上司がテスに証券マン養成コースに入れなかった理由を説明している場面

TURKEL: The straight shot, Tessy, is...they turned you down for the Entre Program again.

はっきり言うが、君はまた証券マン養成コースから落とされた。

TESS: Why? なぜ?

LUTS: We did all we could, Tessy. やることはやったよ、テス。

TURKEL: You know, you have to remember, you're up against Harvard and Wharton Graduates. What do you got, some night school...some secretarial time on your sheet?

[シ] 忘れるなよ。君はハーバードやウォートン卒のやつらを相手にしてるんだぞ。君は履歴書ではせいぜい夜学と秘書の経験だろ?

[テ] ハーバードやウォートン卒がずらりだぜ。それにひきかえ君は夜間部と秘書の養成所出身だろ。

[ビ] 養成コースに入る連中は一流大出のエリートばかりだ。だけど君は夜学しか出てないだろ。

LUTS: Christians and lions, Tess. 弱肉強食の世だ、テス。

話し手のターケルは、テスが夜学と秘書の経験しかないことをデシヨウによって差し出し、コースから落とされたのも当然だという含みで聞き手を納得させようとしている。これは、上司である話し手の力が及ばなかったことの言い訳でもある。

(例14) ジャックが前の彼女とまだ別れていない理由をテスに説明している場面

JACK: It's just, she broke her leg skiing and was laid up and I couldn't see doing it over the phone. You know...kicking somebody when they're down. I wouldn't have mentioned it, except ... she's in your department at Petty. You mentioned her the first time you called.

[シ] 彼女がスキーで脚の骨を折って入院したんだ。電話でそんなこと、話せないだろ。相手が落ち込んでいるときにムチ打つようなことを。 . . .

[テ] 彼女、スキー中に脚を骨折して、その後会えなくなったんだ。電話じゃ言えないだろ、人が不幸な目にあってるときに。 . . .

[ビ] 電話じゃ言えないよ。ましてそんなときに。 . . .

「人が弱っているときに、別れ話など電話では言えない」というのがジャックの理由である。この部分にデシヨウを用いることで、これはみんながそう思う当然のことだから理解してほしいという期待が表れている。

(例15) テスが結婚式の披露宴にもぐり込む計画をシンに話している場面

TESS: How hard would it be to crash a wedding? 結婚式に押しかけていくのは大変かしら?

CYN: What are you talkin' about? 何の話なの?

TESS: Oren Trask's daughter is getting married tomorrow and there's a reception following at the Union Club. So, I figured I'd blend in ... I get to Trask. I mean, how hard could that be? I also figure that the wedding party's not gonna admit that they've never seen you before. I mean, nobody knows everybody at those things, right?

[シ] オーレン・トラスクの娘が明日、結婚するわ。ユニオンクラブでレセプションがあるの。だから、私もぐり込もうと思うの・・・トラスク社長に会うために。難しいかしら? 結婚式って、会ったことがない人ね、とは誰も言わないでしょ。ああいう所って全員を知ってる人はいないんだから。

[テ] ...だって披露宴で初めて会っても、そういう話しないじゃない。実際には知らない顔のほうがずっと多いのにな。

[ピ] ...ぜったいいける。きっとお客は大勢来るし、みんながみんなお互いを知っているわけじゃないからバレっこないわ。

CYN: Tess, wait a minute. テス、ちょっと待ってよ。

テスは招待されていないにもかかわらず結婚式の披露宴のパーティーにもぐり込もうとしている。それが実現可能だと考える根拠は、「結婚式に来る人は全員がお互いに知り合っているわけではないから、知らない人であっても会ったことがないとは言わない」ことである。この根拠を差し出す部分にデショウが用いられている。「だからバレない」というのがテスの主張だが、その部分は口にしなくても伝わっている。それを口に出しているのがビデオの意識である。

ここで注目したいのは、(例13)～(例15)の3例のいずれにも、デショウ訳と対応する英語の部分の前後に"you know"や"right"の付加表現が表れていることである(~~~~の部分)。(例15)で見ると、「I also figure that the wedding party's not gonna admit that they've never seen you before.」という発話と「I mean, nobody knows everybody at those things, right?」という発話が続いているのだが、学習者は後の発話のほうにデショウをつけたくなるのではないだろうか。しかし実際にデショウがついているのは前の発話である。それぞれの例文の論理展開は以下のようになっている。

()の中が話し手の意図を表す部分である。

(例13) ハーバードやウォートン卒を相手にしてるのに、履歴書ではせいぜい夜学と秘書の経験しかない。 (だから養成コースに落ちた。)

(例14) 相手が落ち込んでいるときにムチ打つようなことになってしまうから、電話でそんなことは話せない。 (だからまだ別れ話を持ち出していない。)

(例15) 結婚式に来る人は全員がお互いに知り合っているわけではないから、知らない人に会っても会ったことがないとは言わない。 (だから招待状がなくてもバレない。)

日本語訳でデショウが用いられているのは、の部分である。それに対して、英語の"you know"や"right"が用いられているのは~~~~の部分である。このことから日本語と英語とでは、聞き手の認識に訴えたい部分がずれているのではないかと考えられる。"you know"について言えば、メイナード(1993, p.117)は、その用法の一つとして、「一般的に知識として持っていると思われる情報の中の何かを会話の中に持ち込み、相手に思い起こさせる役目を果たすこともあるといえる」と述べている。この用法はデショウの確認要求に近いとも考えられるが、どの部分を相手に思い起こさせると展開が自然になるのかは日本語と英語で一致しているわけではないといえよう。今後詳しい検討が必要だが、日本語の場合、「～から、～から」と文をつないでいき、最後()に示した話し手の意図に最も近いところにある理由にデショウが使われるのではないかと考えられる。

4. 2. 2 一文を2つに分けて、確認しながら話をすすめたいとき

話し手は自分の言いたいことをわかってもらうために必要な情報を差し出すが、話しことばでは複雑な構造の文を多用すると理解しにくくなるので、単純な文をつないで話すことが多くなる。その際必要情報を聞き手に思い出させたり、話し手が何について話そうとしているのかを示したりする部分にデショウが使われる。

(例16) テスは初出勤の時自分の部屋がどこかわからなかった。そのわけを秘書のバクスターに説明している場面

TESS: Um...when I saw you...in here o-on the phone with your feet up, I figured this was your office.

[シ] ここであなたが机に足を乗せて電話してたので、あなたの部屋だと思ったわ。

[テ] あの、さっきここで机に足を乗せて電話してたでしょ。だからてっきりあなたがボスかと・・・。

[ビ] あなたがここであぐらをかいて電話をしてるのを見ててっきりボスかと思ったの。

BAXTER: I'm sorry about that, Miss McGill. It won't happen again, ever.

申し訳ありません、マクギルさん。以後気をつけます。

英語では時をあらわす節となっている部分が、日本語では理由を表しているものと捉えられている。シナリオ訳とビデオの吹き替えでは、「ので」「～て」を用いた複文となっているが、テレビの吹き替えではデショウを使って文を区切っている。

(例17)

HERB: Frank spent six months up here after that Reagan thing.

フランクはあのレーガンの一件のあと6か月ここにいたよ。

RACHEL: The Reagan thing? レーガンの一件？

HERB: Frank wasn't there the day Reagan was shot. He's never gotten over it.

[シ] レーガンが狙撃された日、あいつは現場にいなかった。それをいまだに悔やんでいる。

[ビ] レーガンが撃たれた事件があったろう。あれは非番だった。

英語では一文で表現しているところを、ビデオの吹き替えでは2文にわけている。「レーガンが撃たれた事件があった」という情報をまずデショウを用いて与え、その情報を共有化してから「そのときフランクは非番だった」という情報を与えているのである。

(例18)

FRANK: ... These trees here, I want them cut back ...

[シ] この辺の樹木は、刈込みを入れて・・・ [ビ] そこに木があるだろ。

HENRY: Right. [シ] 了解。 [ビ] ああ。

FRANK: so the lights can shine onto the property.

[シ] 敷地に陽が差し込むようにする。 [ビ] そこは枝を刈り込んで十分日が差し込むようにしてくれ。

ビデオの訳では、まず「そこに木があるだろ」とデショウで切っている。これは聞き手にこれから何について話すかを示し、聞く準備をさせる効果がある。英語でも話し手は "These trees here" で切っており、同じ展開パターンになっているが、特別な表現は付加されていない。

以上見てきたように、デショウは、相手が理解しやすいように最初に話題を示したり、話す内容の前提となる情報を短く与えたいときに使われている。

5. 附加疑問文とデシヨウ訳の対応

次に、注目した英語の付加表現の中でデシヨウ訳が最も表れやすかった附加疑問文について、デシヨウが使われている場合と使われていない場合の特徴を見ていきたい。

5. 1 デシヨウ訳が使われる場合

デシヨウ訳となっていた場面を分析すると、主に3つのパターンが見られた。

- ① 情報は聞き手にあり、話し手には確信がない。話し手は自分の推量を聞き手に伝え確認している。聞き手はその返答で、話し手の考えの正否を伝える⁶⁾。

(例19)

FLETCHER: You're the bodyguard, aren't you?

[シ] あなたはボディガードでしょ? [ピ] おじさん、ボディガードでしょう。

FRANK: What do you know about? どうして知ってる?

FLETCHER: I've got ears. みんな噂してる。

(例20)

JACK: We're not even invited to this thing, are we?

[シ] 僕たちは式に招待されていないだろ? [テ] 我々は招待されていないんだろ、違うかい。

[ピ] 我々は招待されていないんだ。

TESS: Okay, so we're not exactly invited. But he's here, and we're here, so that makes us...

そう、正式には招待されていないわ。でも彼はここにいて、私たちもいて。だから私たちは・・・。

JACK: Total idiots! 全くバカげてるよ!

(例19) では、フレッチャーがフランクはボディガードだろうと推し量り、その推量の正しさを確認している。それに対し、フランクは「どうして知ってる」という返答でその推量の正しさを伝えている。

(例20) は、ジャックとテスが招待もされていないのに結婚式にもぐりこんだ場面である。ジャックははじめ招待されていると思っていたが、そうではないと感じ取り、招待されていなかったことをテスに確認している。テスの行為を非難する前に、真相を確かめようとしているのである。

- ② 情報は聞き手に関係するもので聞き手の知っていることであるが、話し手もそのことを知っている。話し手は聞き手に質問しているわけではなく、その情報を聞き手に再認識させている。

(例21)

BILL: So what job's perfect? You're a bodyguard, aren't you?

[シ] 完璧な仕事なんてあるのか? 君はボディガードだろ?

[ピ] どのみち守ってもらわんことには。君はプロのボディガードだろ。

FRANK: Yeah. ああ。

ビルはフランクがボディガードであることを知っており、真偽を確認しているものではない。フランクにボディガードであることを再認識させているのである。

(例22) テスがジャックの会社へ仕事の話をもちかけに行き、戻ってきたところ。

TESS: Oh, shoot me, just shoot me. あー、死にたいわ。

(例28)

JACK: You're like one of those crazed cops, aren't you? The kind nobody wants to ride with! Whose partners all end up dead or crazy.

[シ] 君はまるでハグレ刑事だよ。相棒になるやつはいないね。・・・ [テ] 君はまるでドラマに出てくるモーレッツ刑事だ。だれもコンビを組みたがらない。・・・ [ピ] よく平気な顔してられるな。たいした相棒だよ。大胆というより無謀。むちゃくちゃだ。(意識になっている)

TESS: Just act like you belong. 上手く芝居して頂戴。

(例27) では、話し手のフレッチャーはレイチェルが怒っていることを本人から聞いて知っており、話し手に確実な情報がある。(例28) は、話し手が聞き手についての感想・評価をその場で思いついて比喩的な表現で聞き手に述べているものである。デショウが使えるのは聞き手に情報がある場合か、たとえ聞き手の知らないことであっても、聞き手が当然そう思うと考えられるコトガラを差し出す場合である。(例28) では、聞き手が当然のように「自分はハグレ刑事だ」と思うとは考えられないのでデショウが使いにくい。英語ではこのような場合も附加疑問文で表現できるので、注意が必要である。

6. その他の形式との対応

最後にデショウ訳が使われた部分に対応していた他の形式、"you know"、"right"、"huh?" について簡単に触れておきたい。まず"you know"であるが、総出現数44のうち9例がデショウ訳と対応していた。これには二つのタイプが見られた。

① "you know" の "you" がその文の主格となっている場合。(例29)

② "you know" が「埋め込み表現 (filler)」(メイナード1993, p.116) として使われている場合 (例30) (例31)

(例29)

TESS: Well, you know how Trask Industries has been looking to buy into broadcasting?

[テ] あの、トラスク産業が放送業界へ進出をねらってるの、ご存知でしょ。

(例30)

RACHEL: ... I like to go out for an evening, you know, with a guy, you know, like a date.

[シ] 外出したい夜もあるのよ、男性と、分かるでしょ、つまりデート。

(例31)

GINNY: You read "W"? 「W」誌を読むの?

TESS: Oh, I read a lot of things. I mean, you never know where the big ideas could come from. You know? (chuckles)

[テ] 雑誌は何でも見ます。どこからいいアイデアが出てくるか分からないでしょ、だから。

①のタイプは、You を主格とする構文で、すでに述べたように二人称の人称制限がある。全部で6例あったが、たずねる文となっていた1例をのぞき、残りの5例はすべてデショウ訳となっていた。一方、②のタイプは、38例中4例しかデショウ訳が使われていなかった。(例30) のように [分かるでしょ] の類の訳がついている場合もあるが、省かれている場合も多く、さまざまな訳になっていた。

最後に"right"と"huh?"であるが、デショウ訳と対応しているものはそれぞれ4例、3例と数が少なかった。対応していたのは、聞き手のほうに詳しい情報があって話し手が確認している場合や、自分の意見を出したあとで、最後に「でしょ」を加えて、聞き手に同意を求めている場面であった。

CYN: Would you cut that out? They didn't throw you out, did they?

[シ] よしてよ。追い出されたわけじゃないいでしょ。

[テ] やめてよ。たたき出されたわけじゃないいでしょ。 [ビ] 別にたたき出されたわけじゃないいでしょ。

TESS: Oh! Well, they don't exactly have bouncers, you know. They're a little more subtle than that, Cyn...Oh, God, and last night! 追い出されたわけじゃないけど。彼らはそうするほど手荒じゃないわ。シン。ああ、それに昨夜のことも!

この場合も話し手のシンは聞き手テスが追い出されたかどうかを知りたくて発言しているのではない。テスが追い出されたわけではないと知っていて、テスをなぐさめるために「追い出されたわけではない」ことをテスに認識させようとしている。

③ 誘いや許可を求める場面で、決まり文句的にデシヨウを用いた文を使う。

(例23) 夜の食事を断られたジャックがテスを昼食に誘っている場面 (例12と同じ場面)

JACK: I've been up here all night, workin' the numbers. I'd like to go over it with you. Can we meet for lunch? I mean, Lunch is all right, isn't it? Daylight, a lot of people around. Is that real romantic?

[シ] ...君と一緒にもう一度計算を見直したいんだ。ランチの時に会えないか? ランチならいいだろ? ... [テ] ...一緒に検討したいんだが昼でもどう。別に昼食ぐらいならいいだろ。

[ビ] ...昼飯食いながらいっしょに検討しよう。昼食ならいいだろ。...

(例24) 歌手のレイチェルが舞台の上から観客に向かって呼びかけている場面

RACHEL: ... Hello! Just wanted to stop by, and maybe sing a song. I hope you don't mind, do you?

[シ] 歌ってもいいいでしょ? [ビ] 歌いたくて。かまわないわよね。

日本語では「いいでしょう」「～でもいいでしょう/～てもかまわないでしょう」は、誘いや、許可を求める表現として一つのパターンとなっている。英語で同様の意味を表す表現があるとき、これらのデシヨウ訳が使われやすい。

5. 2 デシヨウ訳が使われない場合

上で見たように附加疑問とデシヨウはかなり良く似た働きをしていると思われるが、附加疑問文でデシヨウ訳になっていないものも8例あった。しかしこの8例の中の4例はデシヨウを使っても自然になるものだった。それらは、5. 1で述べた①と同じ状況、つまり自分の推量を聞き手に確認するものであり、デシヨウのかわりに「ね」、「よね」などの他の確認表現が用いられているものが多かった。

(例25) It isn't over yet, is it? [シ] まだ終わったわけじゃないのよね?

(例26) You must think my life's pretty sickly, don't you? [シ] 情けない人生だと思ってるんでしょうね。

ニュアンスの違いは感じられるが、(例25)は「まだ終わったわけじゃないんでしょ?」、(例26)は「情けない人生だと思ってるんでしょ?」とすることが可能である。

一方、デシヨウ訳がつかないと思われる4例は、1例をのぞき⁷⁾、すべて確実な情報が話し手にある場合や話し手の意見を言う場合であった。この場合、「よ」や「ぞ」の終助詞が使われていた。

(例27) レイチェルの息子フレッチャーのフランクに対する発言。

FRETCHER: She's real mad at you, isn't she? She told me she doesn't understand why you're being so shitty to her.

[シ] ママ、かんかんだよ。あなたのくそったれぶりが理解できないって。

[ビ] ママを怒らせるようなことをしたの。フランクのゲス野郎にあんな仕打ちをされる覚えはないって言ってたよ。

確認要求表現「でしょう」を用いた発話について
 -対応する英語部分との比較-

7. おわりに

以上、アメリカ映画の日本語訳にデショウが使われている部分をとりあげ、対応している英語の部分と比較し、その結果を記述してきた。デショウ訳と対応する英語の部分で最も多かったのは、何の付加表現もない無標の場合であった。

聞き手を誘う、聞き手に勧めるなどの働きかけを行う場合や、話し手が自分の主張や行為の正当性を示したいとき、その根拠となる部分にデショウが使われる。学習者にとってわかりにくいのは、どの部分を根拠としてデショウによって聞き手の認識に訴えればいいのかということだろう。"you know"や"right"の使用される部分とずれがあるので注意が必要である。また、日本語では、聞き手に聞き手の感情や意志、過去の行為などを述べ立てる場合は、「ね」やデショウなどの文末表現が必要になる。従って英語の二人称ガ格の文にはデショウ訳が表れやすい。こういう日本語の、英語にない人称制限についての知識も学習者にとって必要であろう。

英語に見られる付加表現の中でデショウ訳と比較的よく対応していたのは附加疑問であった。特に聞き手のほうに確かな情報があり話し手が聞き手に内容の正否を確認するような状況でデショウが使われやすい。しかし、そうでない場合の附加疑問文にはデショウが使われにくいので注意が必要である。また、日本語の働きかけの表現には「いいでしょう」などの決まったパターンがあり、付加表現のありなしにかかわらず、誘いや依頼などの場面で用いられていた。こういった表現を集めてパターンとして教えておくのもいいかと思われる。

今回、学習者の視点に立つつもりで、デショウ訳に対応する英語部分を見てきた。この部分を訳すとき、あるいはこのような内容を伝えたいとき、学習者はデショウ（あるいは他の確認要求表現）を使うだろうかと考えたのである。その結果、上に述べたようないくつかの留意点が明らかになった。しかし同時に検討すべき課題も多く残された。デショウを含む談話の展開をわかりやすくパターン化することや、他の確認要求表現「よね」との使い方の違いをはっきりさせることなどである。また、今回デショウを使うことによって示される話し手の感情（非難を表すなど）については分析することができなかった。中北（2000）が指摘するように、デショウはあまり待遇度の高い表現とは言えずその使用を避けたほうがいい場合も多い。例えば、「さっきそう言ったでしょう」などの使い方と感情的効果は英語も日本語も共通しているように思われるが、学習者が気づかずに使ってしまう聞き手に失礼な印象を与えている場合もある。今後デショウのもつ感情的効果を分析しながら待遇性についても検討していきたい。

注

1. 例えば、"Someone's cut the phone lines. Could be anywhere between here and town." 「・・・ここから町までのどこかだろう。」のように、デショウが話し手の推量を表すのみで、確認要求の機能を持たないと思われるものは検討の対象としなかった。
2. 今回はデショウ訳がシナリオ、ビデオ、テレビの何か所で使われているかを考慮に入れた分析を行うことができなかった。データだけ以下に示す。「シ」はシナリオのみ、「テ」はテレビの吹き替えのみ、「ビ」はビデオの吹き替えのみで使われていたことを示す。「シ/ビ」は、シナリオとビデオの吹き替えの2か所で使われていたことを示す。

表3 デショウ訳が使われていた資料

	ワーキングガール							ボディガード			計
	1か所のみ			2か所			全て	1か所のみ		両方	
	シ	テ	ビ	シ/テ	シ/ビ	テ/ビ	シ/テ/ビ	シ	ビ	シ/ビ	
附加疑問	1	1	0	1	0	0	2	5	2	6	18
You know	2	3	0	0	0	0	1	3	0	0	9
Right	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	4
Huh	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
付加表現なし	18	12	2	3	2	1	5	17	8	8	76
合計	22	16	2	4	2	1	8	29	11	15	110

3. 述べ立てる文で聞き手に確認を求めているのは、"You must be friends of Mark's."という英文で、日本語訳は「マークのお友だちでしょう」「マークのお友だちでしたかしら」「マークのお友だち？」となっていた。この"You must ~."の形は、聞き手に関する話し手の推測を聞き手に述べるもので、英語では述べ立ての形であるが、日本語では質問か確認の表現が対応する。
4. 瓜生 (1996) では、デショウの談話機能を次の6つに分類したが、この中の2. の用法に相当する。[1. 前提情報を提示する 2. 因果関係を示す 3. いくつかの事柄を並べ立てる 4. 確認する 5. 相手の話を引き出す 6. 判断や感情を表す]
5. 上記、瓜生 (1996) の1. の用法に相当する。
6. 上記、瓜生 (1996) の4. の用法に相当する。
7. この1例は次のものである。"God, that's not it, is it? That's it, isn't it?" 「嘘でしょ? 本当なの?」

参考文献

- 瓜生佳代 (1996) 「文末の「だろう」の運用に関する考察」平成7年度お茶の水女子大学言語文化専攻修士論文。
- 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論』大修館。
- 泉子・K・メイナード (1993) 『会話分析』くろしお出版。
- 中北美千子 (2000) 「談話におけるダロウ・デショウの選択基準」『日本語教育』107。
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房。
- 蓮沼昭子 (1995) 「対話における確認行為—「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法—」『複文の研究(下)』仁田義雄編くろしお出版。
- 水谷信子 (1985) 『日英比較話しことばの文法』くろしお出版。
- 水谷信子 (2001) 『続日英比較話しことばの文法』くろしお出版。
- Kamio, A. (1994). The theory of territory of information: The case of Japanese. *Journal of Pragmatics* 21, 67-100.
- Schiffrin, D. (1987). *Discourse Markers*. Cambridge: Cambridge University Press.

資料

- 外国映画英語シナリオ スクリーン・プレイシリーズ『ワーキング・ガール』改訂版 スクリーンプレイ出版 1994.
- 外国映画英語シナリオ スクリーン・プレイシリーズ『ボディガード』スクリーンプレイ出版 1994.